



『糖尿病とがん』



しもじ内科クリニック院長

下地 栄壮



糖尿病の合併症としては、三大合併症といわれる網膜症・腎症・神経症(神経障害)が有名ですが、糖尿病があるとがんが発症しやすくなることが分かってきました。

発症リスクは、肝臓がんが約 2 倍、すい臓がんが約 1.9 倍、大腸がんが約 1.4 倍と高く、子宮内膜がんと膀胱がんなども増加傾向を認めます。また、罹病期間が長い程がんの発症率が高くなり、糖尿病を 15 年以上患っている人は、糖尿病を罹病してから 15 年以内の人に比べて、男性で 1.6 倍、女性で 1.8 倍高くなると報告されています。

糖尿病が何故がんを発症しやすいのかは正確には解明されていませんが、いくつかの理由が考えられています。

① インスリン抵抗性と高インスリン血症

インスリンには糖代謝を促進させて血糖値を下げる働きがありますが、がん細胞を増殖させる働きも持っています。糖尿病があるとインスリンが効きにくいためにインスリンが過剰に分泌され、そのインスリンががん細胞を発生させたり、がん細胞

を増殖させたりすると考えられています。特にインスリンは膵臓で作られて肝臓へと流れていくので、肝臓がんとすい臓がんのリスクが上がると考えられています。

② 尿肥満による炎症

肥満によって蓄積された脂肪では慢性的に炎症が起こるため、がん細胞が発生すると考えられています。

③ 高血糖そのものによる影響

高血糖状態は細胞内の酸化ストレス(活性酸素などが増えている状態)を亢進させ、この酸化ストレスが DNA にダメージを与えがん細胞を発生させると考えられています。



④ 生活習慣

運動不足、動物性脂肪の摂り過ぎや野菜・食物繊維の不足、喫煙、過度の飲酒などがんを発生させやすい生活習慣は、糖尿病の発症や悪化にも関係します。

がん予防のためにできることは、まず健康的な生活を徹底することです。そしてがんを早期に見つけるために、定期的ながん検診を受けることが大切です。また、糖尿病の治療薬であるメトホルミンにがん抑制効果が示唆されていますので、メトホルミンの内服を考慮することも良いでしょう。

お知らせ

インフルエンザの予防接種を 10月1日から開始します。予約制ではありませんので、ご希望の方は受付にお申し出ください。



しもじ内科クリニック(nico nico studio)

東区三苦 3 丁目 2-49(福岡銀行美和台支店隣り)

TEL:092-605-6300